

三里塚・ジェット闘争貫徹 / 「国鉄35万人体制」粉碎 /

3月大ストライキ貫徹の成果を 勤労大改革へ前進しよう

勤労本部「スト破り集団を断罪する」

勤労千葉千三百名組合員が火の玉と化して貫徹した首都圏・房総を揺がす三月決戦ストは、政府支配者階級をして根底から震撼せしめた。勤労千葉の闘いは、反動秋山労政による従来の労使関係をも破壊し、ひたすらスト圧殺攻撃にうってでこきた超反動・弾圧体制を、労働者魂と威力を発揮して粉碎し勝利し実現した。この勝利した闘いの核心こそ「反合・三里塚ジェット闘争を水路にしたハ〇年代に通用する自前の労働運動」路線の正義性であり、この路線を確信し信頼していかなる弾圧、困難をも恐れぬ闘争力・団結力である。ゆえに、この勝利した成果を堅持し発展させる立場から、三月ジェット決戦ストに悪ばを投げかけてスト破りを平先して行った「本部」反動分子を怒りをもって弾劾し、勤労大改革の現実化をより前進させるために向うなければならぬ。

スト破りを正当化する「本部」派を許すな

勤労「本部」はスト破り集団である。それを自ら最もよく知るがゆえに「本部」反動分子は、テック上げ「勤労千葉地本情報」なるものをもって三月ジェット決戦ストライキ過程でスト破りを正当化し、スト破りを「本部」派組合員に奨励していたのである。

いゆく、無意味なストは組合員に犠牲を強いるだけだ。とか、助役株主を線見させたと言ってもスト破りでない。取組組合員の利益にならないストライキ、等々の反動的キャンペーン、悪ばを投げかけ、拳句は、千葉勤労が「本部」派組合員の株主車めがけて投石、等とテック上げている。

無意味なストは組合員の利益にならないスト……等と悪ばを投げかける論理は、政府・権力・当局・ブルジョアマスコミと同一であり労働組合の論理ではない。この論理をもつてすれば、労働者、労働組合は他者を犠牲にし、踏みつけた上に利益を追求するということ、および本来の労働組合からかけ離れた利益追求集団になるであろう。ここからは労働運動の前進も労働者としての自己変革もかちとれず、労働者を奴隷の道へひきこむ論理である。「本部」反動分子は、自らのセグト的延命のために「本部」派組合員を奴隷の道へひきこむのである。

その象徴的言辭が、「本部」派野口某(津田沼)の「ジェット延長合意でカラーテレビ一台・Dレ株主に軍手10足・カサをかちとったから成果」と云わしめられているのだ。なんと腐り切った根性か?

勤労千葉組合員は、「賃金の問題じゃない」「政府・当局の不当は許せない」「権力の側にたつて反対同盟に敵対することはできない」「ストを貫徹して労働運動をかえるんだ」と、大きな目標をもって即ち、これこそ労働者のとるべき道である。だからこそ、全国の労働者・農民・人民をふるいたたせ、限りない女感・連帯の渦を巻き起し80年代日本労働運動の進むべき方向をさし示したのである。

しかも決定的なことは、助役株主を二月十九日の時点で容認しスト破りに平先協力した(勤労本部方針)にもかかわらず、それを「スト破りではない」と云いのかれをしっている。それを正当化するために、ジツト延長問題、国労と共に妥結(テック上げ情報)と描き出してきたのである。

しかし現実には、勤労千葉地本も三月四日助役株主導入に抗議し列車掛の束務拒否闘争をやり抜いた、のであり、唯一「本部」派のみが助役株主導入に抗議もせずスト破りに積極加担したのである。

ゆえに、このスト破り裏切り行を弾劾し、勤労の真の戦術的伝統発展継承のために勤労大改革へさらに前進しよう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!